

筑後市(水田・下妻・古島小)再編新設小学校等建設設計 概要版

令和3年 12月  
筑後市教育委員会

### 地域と共生し、まちと教育の核となる施設

- ・本計画は水田小学校・下妻小学校・古島小学校を再編する新たな小学校と、これまでの施設に替わる新たなコミュニティセンター・学童保育所を建設するものです。
- ・現小学校・コミュニティセンター用地を新たな敷地として、これらの施設を併設することにより、子ども達のより良い学習環境と地域コミュニティの核となる施設をつくります。
- ・避難所となるコミュニティセンターや体育館は、地域にとって重要な施設となるため、災害時にあっても有効に機能する施設を目指します。

### 地域との共生

- ・地域・家庭・学校のつながりを感じることができる空間
- ・子ども達と地域住民の交流と賑わいが生まれる場
- ・誰もが安全・安心に集える施設

### 学習環境の整備

- ・多様な学びに対応できる創造的な空間
- ・主体的な活動を支える場
- ・潤いとゆとりのある施設

### 災害に対する備え

- ・被害のリスクを低減する工夫
- ・避難所としての快適な環境

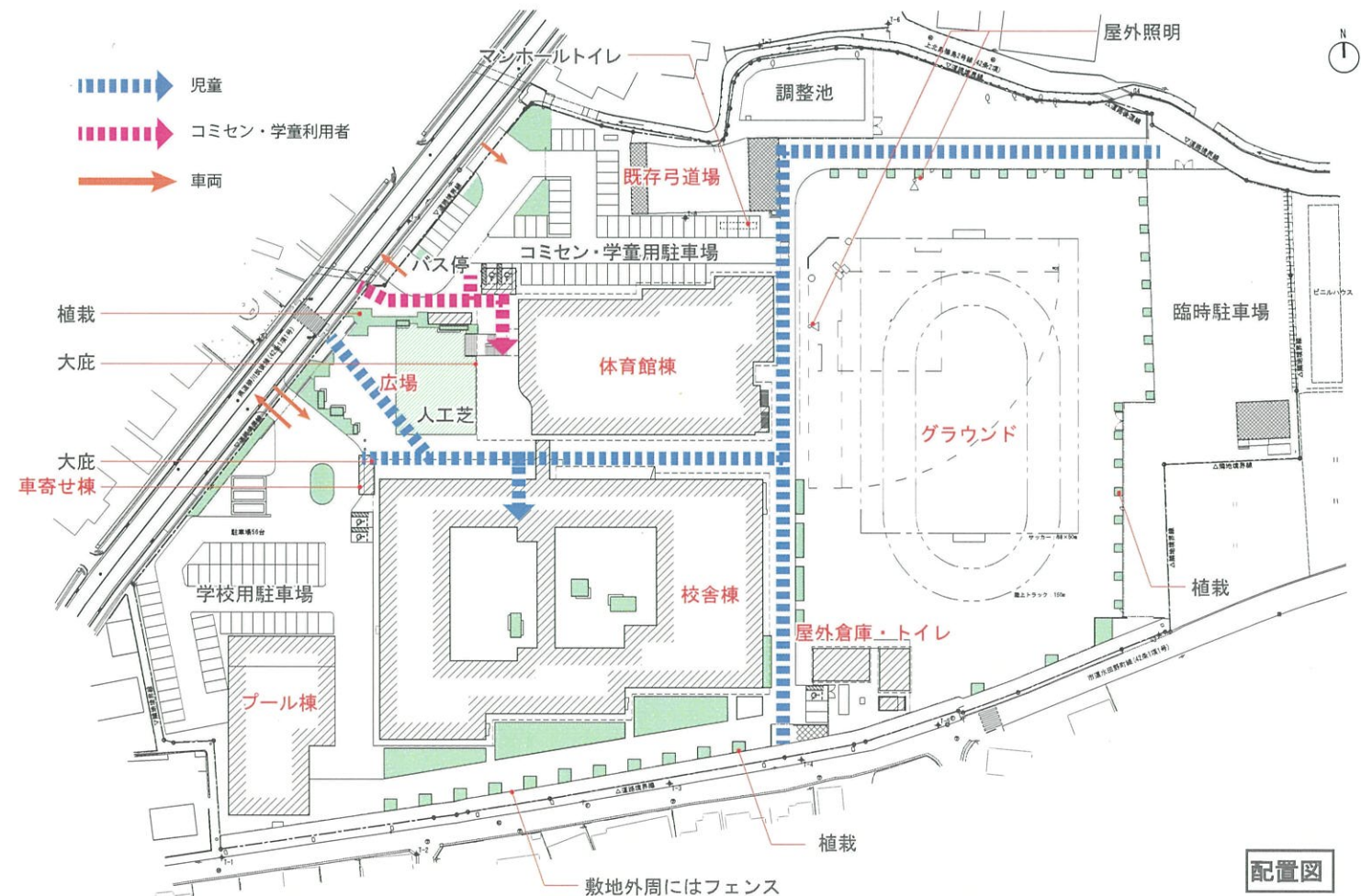
### 配置計画

- ・既存の建物を残したまま新築工事を行うこととし、既存施設の運営に支障のない計画とします。
- ・体育館棟を1階コミュニティセンター・学童保育所、2階小学校体育館の複合施設とすることで相互の連携が取れるとともに、避難所としての利便性も高めます。
- ・敷地内に調整池を設け、大雨時等の雨水流出を抑制し、周辺地域の水害リスクを低減します。
- ・校舎棟と体育館棟に面して広場をつくり、建物と広場の間には大庇を設けます。
- ・敷地南側の道路は幅員が狭く、向かい側には住宅が立ち並んでいるため、敷地南側に配した校舎棟をできる限り道路から後退させ、2階建てとすることにより、圧迫感を低減します。
- ・校舎棟は中庭を囲む回廊型とすることにより、子ども達は校舎内全体の様子を窺うことができ、一体感を深めます。
- ・プールは、校舎棟の西側に隣接させ、子ども達が利用しやすい配置とします。
- ・コミュニティセンター駐車場と広場の間には植栽帯を設け、セキュリティを向上させます。

- ・コミュニティセンター駐車場の一角に路線バスのバス停を整備します。
- ・体育館棟に近い位置に、災害時に利用できるマンホールトイレを整備します。
- ・グラウンドは、150mのトラックを設け、少年野球・少年サッカーに対応できる仕様とし、屋外照明設備を設置します。
- ・敷地外周部にはフェンスを設け、道路への子ども達の飛び出しを防止します。
- ・敷地外周部には植栽帯を設け、周辺環境の向上に寄与します。

### 動線計画

- ・コミュニティセンターと小学校への出入口を別々に設け、さらに南北2箇所に駐車場を配することで施設ごとの動線を明確に分離します。
- ・車両の出入りは、基本的に、西側の県道からのみとします。緊急車両の通行やイベントの際に臨時駐車場を利用するとき等は、南側や南東側からの出入りも可能とします。
- ・校舎棟西側に屋根のある車寄せを設け、雨天時でも濡れずにスクールバスから乗り降りできるようにします。



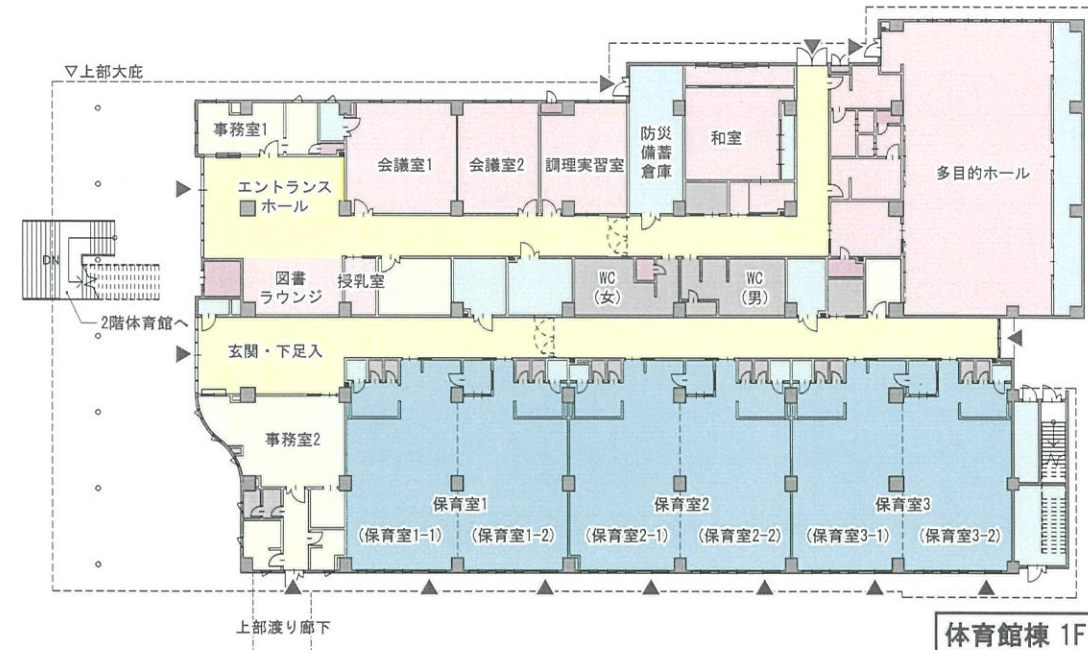
配置図

### 小学校 教室ゾーン

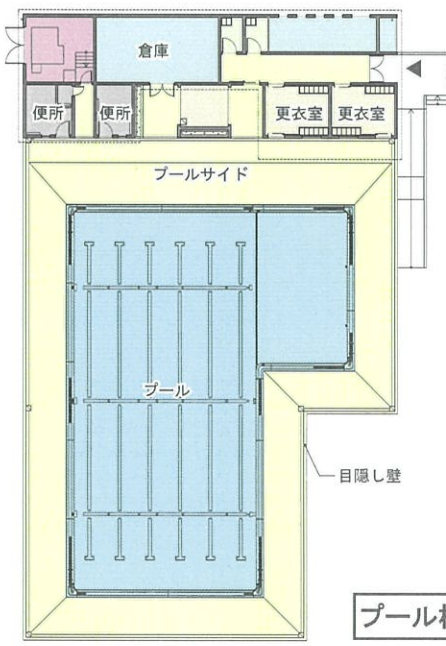
- ・1階を低学年、2階を高学年の主な生活ゾーンとします。
- ・特別教室ゾーンは2階北東側にまとめて配置します。
- ・普通教室は日当たりの良い南側に配置し、採光・通風に配慮します。
- ・特別支援教室は職員室・保健室に近い1階東側に配置します。
- ・通級教室は、在籍する子ども達・保護者が外部から直接出入りできる1階南東の角に配置します。
- ・各階に多目的教室を設け、多様な学習活動に対応できる計画とします。  
また、普通教室と同じ造りにすることで、クラス数の増加に対応できるようにします。
- ・2階北側に大空間の多目的ホールを設け、体育館以外でも、学年集会等が行える計画とします。

### 小学校 管理ゾーン

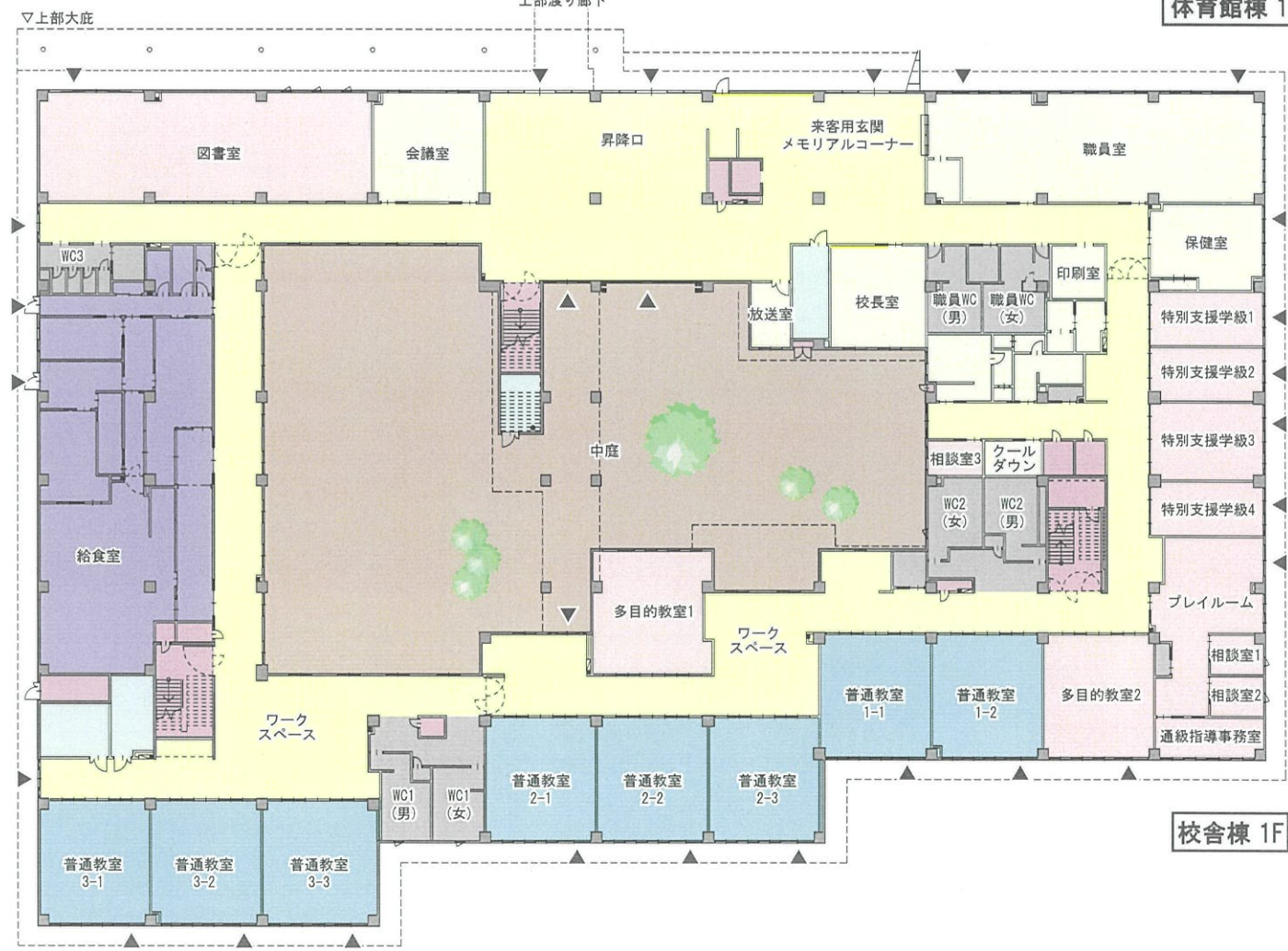
- ・管理諸室は1階にまとめて配置し、管理・運営の効率化を図ります。
- ・職員室は1階の北東角に設け、グラウンド及び玄関・昇降口が視認でき、子ども達を見守りやすい配置とします。
- ・保健室はグラウンドから直接出入りでき、緊急車両が寄り付くことができる東側に配置します。
- ・特別支援教室の近くにクールダウン室、相談室を設けます。



体育館棟 1F



プール棟 1F



校舎棟 1F

### 小学校 体育館・プール

- ・体育館には、電力消費量が比較的小さい空調設備を設置し、避難所として利用する時だけでなく、学校行事・体育の授業・社会体育など日常的な利用を可能にします。アリーナは、ミニバスケットボールで2面、バレーボールで2面、バドミントンで4面のコートが利用できます。
- ・プールは大小2つを設け、低学年の利用に配慮したつくりとします。周囲には目隠しを設け、プライバシーにも配慮します。

### 小学校 共用ゾーン

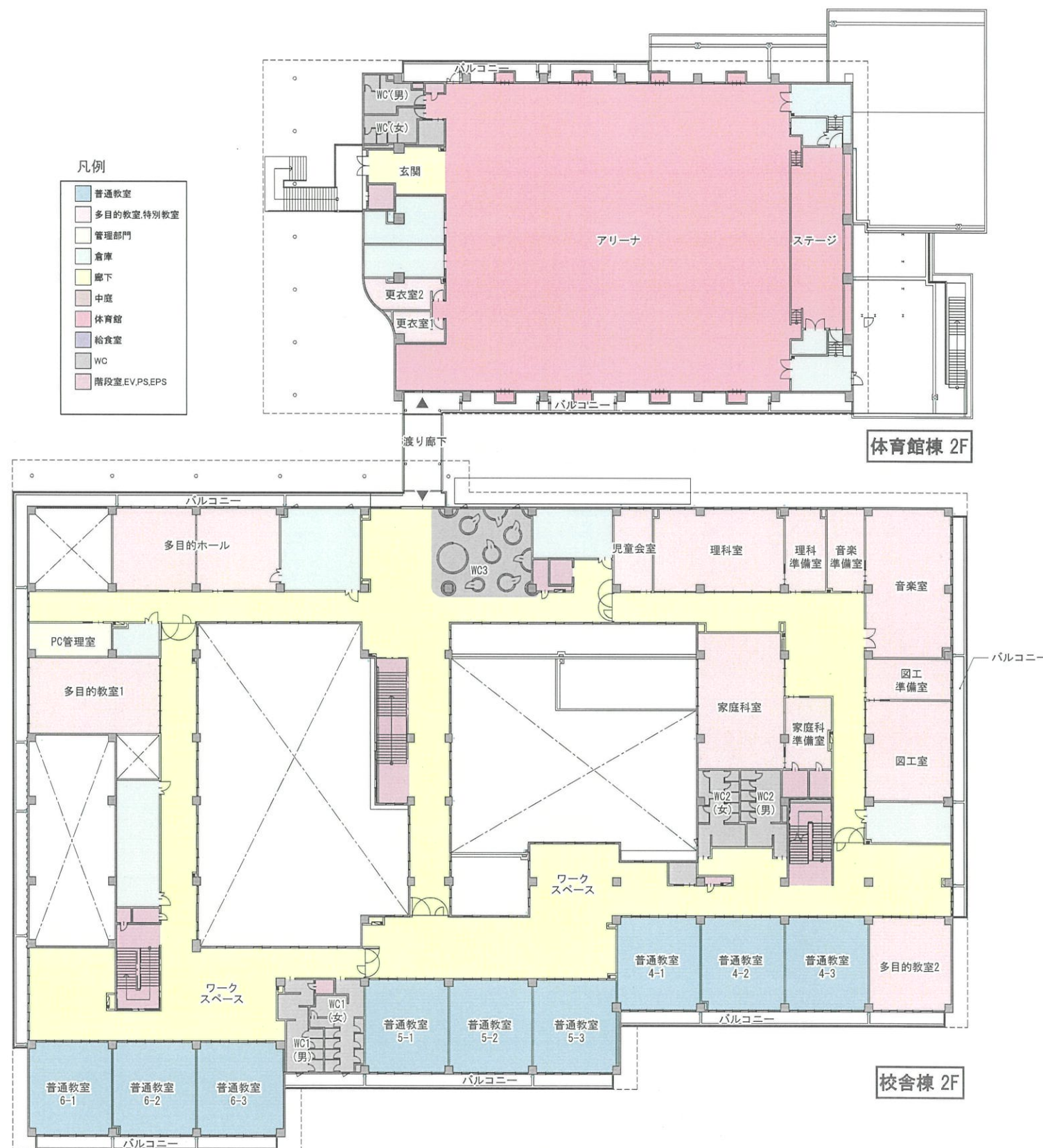
- ・校舎の中心に位置する中庭は、学年を超えた子ども達の交流を促したり、多様な学習活動を可能にします。
- ・トイレは各階南側に2か所、北側に1か所設け、利便性に配慮します。
- ・昇降口の正面に幅の広い階段を設け、2階普通教室から昇降口まで大人数がスムーズに移動できる計画とします。
- ・普通教室や特別教室に面したワークスペースを各所に設けることにより、教室の延長としての利用や、学年での集合の場や発表・展示の場など、多様な学習・活動に柔軟に対応することが可能となります。
- ・来客用玄関に再編される3校の歴史を記念するメモリアルコーナーを設けます。

### 学童保育所

- ・保育室は全6室設け、240人の受け入れが可能な計画とします。
- ・また、全室南向きに配置し、保育環境に配慮します。
- ・各保育室内にトイレ・手洗いを設け、指導員の目が行き届く範囲で活動が完結できる計画とします。
- ・静養室とキッチン隣接する2つの保育室で共用できる計画とします。
- ・出入り口は広場に面した大庇の下に設け、雨天時でも校舎棟との行き来がしやすい計画とします。
- ・事務室は入り口付近に設け、来客や保護者の対応が可能な計画とします。
- ・内部倉庫と外部倉庫を設け、日常的に利用する備品や消耗品等に加え、一輪車など屋外で利用する物品も収納できるようにします。

### コミュニティセンター

- ・会議室、調理実習室、和室、多目的ホールなどを設け、様々な生涯学習の場を提供します。
- ・利便性を高めるため、会議室1と会議室2は一体的にも分割しても利用できる造りとし、多目的ホールはスポーツや大人数での会議にも利用できる造りとします。
- ・エントランスホール近くには誰でも利用できる図書ラウンジを設けます。
- ・自主防災組織の資機材や災害用物資などを備蓄する倉庫を設けます。
- ・出入口は学童保育所と同様に広場に面した大庇の下に設けます。
- ・大庇の下に2階の体育館へ通じる外階段と外部から利用できるエレベーターを設けます。
- ・事務室は駐車場から玄関への通路部分に面して設け、来訪者の確認ができる配置とします。





【外観イメージ図】

## 賑わいと交流を生む広場と建物の配置

- ・ 建物は校舎棟と体育館棟の2棟をL型に配置し、中央に広場を設けます。
- ・ 広場に面して設けた大きな庇による軒下空間は建物と広場、建物と建物を緩やかに繋ぐ役割を果たし、施設全体としての一体感を生み出します。
- ・ 広場の外周部にはセキュリティも考慮した植栽を設け、緑豊かな憩いの場とします。
- ・ 広場の中央部は広い人工芝の舗装とし、誰もが安心・安全に活動できるスペースとします。
- ・ 体育館に通じる階段は広場側からも行き来できる形とし、広場に多様なアクティビティを創り出します。

## 地域の風景と呼応する、シンボリックな大屋根

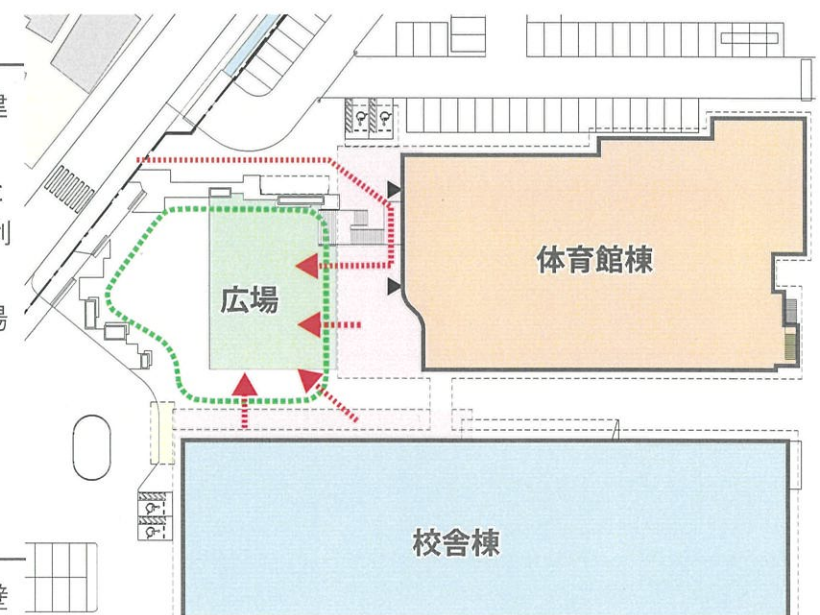
- ・ 水田 / 古島 / 下妻校区は遠方に山々を望む平坦な地形です。体育館の屋根を柔らかな曲線状の大屋根とすることで、各校区から望める風景と呼応し、地域のシンボルとなる施設とします。

## 多様な活動を促す2つの大庇

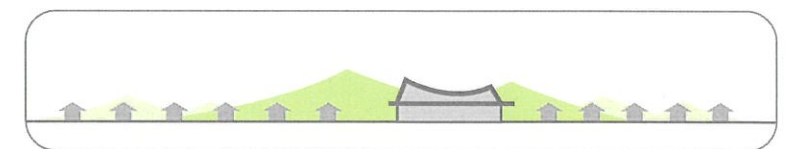
- ・ 校舎棟と体育館棟は共に、大きな庇を列柱で支える形状とし、広場を囲む建物として一体感のあるデザインとします。
- ・ 大庇は子ども達や利用者を迎え入れる施設の顔となり、半屋外のスペースとして活発な各種活動の場が期待できます。また、広場の人工芝と一体的に利用すれば、様々なイベントを開催できる場となります。
- ・ 図書室の壁面を大きな窓とし、軒下にベンチを設けることで、図書室と広場の活動に繋がりを感ずることができる空間となります。

## 周辺建物とのスケールに合わせた親しみやすい校舎

- ・ 住宅に近接する校舎棟は、建物の形状を雁行させることで、南側の長大な壁面が3分割され、周辺への圧迫感を軽減します。



【広場を中心とした施設配置】



【大屋根コンセプトイメージ】

# 05 工事ローテーション計画

